

満足して人生を終えるために

1. 人生における満足

英国の文学者で、ジョージ・バーナード・ショウという方の名言の一つに、「私が一つの欲望を持つかぎり、私は一つの生きる理由を持つ。満足は死である。」ということばがあります。何事にも満足してしまって、欲をなくしてしまったら、もう生きている意味はない、死んだも同然だ、ということでしょうか？ 生きている限り、前向きに意欲をもって生きよ、ということでしょうか？

人の寿命ほど、わからないものはありません。一見元気そうな人でも、いつ、深刻な病気が見つかるかも知れないし、ちょっと買い物に出かけた時でも、乗り物に乗っていても、自宅に居たって、いつ何事が起こるか、わからない時代です。自分が、平均寿命ぐらいか、またはそれを超えて天寿を全うするまで生きられるか、誰にもわからないでしょう。

近藤誠著「余命3か月のうそ」という本を読みました。進行癌の患者さんの余命でさえ、正確に言い当てることはできません。

大津秀一著「死ぬときに後悔すること25」という本を読みました。著者は緩和ケアの専門医で、多くの患者さんの最期を看取ってきた経験の中から、死を前にして「後悔すること」、「やり残したこと」、をまとめてみたものです。25項目も挙げてありますが、それらをひとつひとつ我が身に当てはめてみると、すでにクリアできていることもいくつもあるし、この年齢になってはもうできそうもないこともいくつもあるし、これからでも達成できそうなこともいくつもあります。

私の寿命があとどのぐらい残っているのか、わかりませんが、私にとってさしあたりやっておくべきことは、たとえば、会っておきたい人、行ってみたい場所、食べておきたいもの、片付けておきたいこと、などいくつかが考えられます。昨年、病気を患って以来、いろいろと考えることがあって、少しでも後悔が少ないように、満足して一生を終えられるように、やっておきたいことを少しずつ済ますように心がけているところです。

2. 「後悔」と「満足」

自分のこれまでの人生を振り返ってみると、後悔していることはいくつも思い出されます。あのとき、こうしておけばよかった、なぜあんなことになってしまったのか、などといったことがいくつも思い出されます。「後悔先に立たず」といいますが、後で後悔しようと思って決断することは無いはずなので、ほとんどはやむを得ない結果とは思いますが、後悔することが少ない方がいいに決まっています。そうすれば、より「満足」が多くなるでしょう。

3. 気が済むか、済まないか

「満足」ということを考えるとき、「気が済むか、済まないか」ということも一つの要素になると思います。「そこまでやれば、気が済んだらう」とか、「気が済むまでやらせてやれ」とか、いいますよね。

気が済むまでやったことで、良い結果となることもあれば、悪い結果で終わることもあるでしょう。しかし、「気が済むまでやった、思い残すことはない、いつ死んでもいい」

と違って死ねたら、それは満足して死ぬ、ということでしょう。

この件で考えるとき、思い出す映画があります。1996年のアメリカ映画；「ヒート」です。この映画の見所は、実力派の二人の俳優；ロバート・デ・ニーロと、アル・パチーノの共演です。お互いに円熟した時期の作品です。

「ニール」（デ・ニーロ）は強盗団のボスで、頭が切れ、仲間とのチームワークで着実に仕事をこなし、ドジは踏まない男。万一、危機が迫ったら、即高飛びできるように家庭は持たない。ハナ警部（アル・パチーノ）は、仕事にとことん打ち込み、家庭を顧みないので、3人目の奥さんとも破局寸前。

ある時、現金輸送車を襲撃する仕事で、ある男を臨時に雇ったが、その男がドジを踏んだ。ニールは、その男のへまを許せず、消してしまおうと考えたが、機会をのがして逃げられてしまった。

その後、その男が原因で自分たちの情報がもれ、仲間が一人殺された。さらに、次の大きな仕事の情報を、直前に警察にタレコミされて、強奪を終えて銀行の前に出てきたところで警察と壮絶な銃撃戦となる。仲間二人が射殺され、ニールは負傷した一人と共に辛くも脱出して生き延びた。

ニールは、死んだ仲間たちの敵（かたき）を討ちたかったが、「自分への掟」に反して恋に落ちてしまって、足を洗って恋人との新しい生活を始めるべく、高飛びすることにした。チャーター機を用意して、空港に車で向かっていたが、途中で、敵として探していた男の居場所を知らせる一報がはいる。その瞬間、あきらめかけていた敵討ちが頭によみがえる。さあ、どうするか？ このまま高飛びしても、一生、気が済まないまま生きなければならぬ。それはダメだ、と思った瞬間、車のハンドルを切って敵のいるホテルへ向かった。警察のしかけた罠と、知ってか知らずか。

そして警察の監視網をかいくぐって、敵の男の部屋に入り射殺した。急いで空港に向かうとして、車にもどってドアを開けようとした時に、ハナ警部に見つかってしまい、車を離れた。1対1の対決で、結果、ニールがやられてしまった。

ニールは、抹殺すべき男を殺して、仲間の敵（かたき）を討ったし、自分の気も済んだ。それで、満足して死んでいったか、というと、そうではないでしょう。愛する恋人との何不自由のない生活がすぐ目の前にあったのに、愛する人を残して死ぬのは、どうみても満足のいく結末ではない。しかし、プロの強盗としては、「自分への掟」に反して恋におちたのだから、その恋人との別れはいつでも甘んじて受け入れねばならないもの、と置いていたにちがいない。むしろ、宿敵のハナ警部との一騎打ちに敗れたことが痛恨の極みだったと思います。

4. 終わりよければ総てよし

こうしてみると、人生の最後が大事だ、ということになります。まさに「終わりよければ総てよし」ということでしょう。若いときに大変な苦勞をして、つらい思いをしても、晩年が幸せなら、満足して生涯を終えられる、そう納得して死んでいける。逆に、若い頃は幸せだったが、晩年になって運悪く不遇のうちに亡くなるようなら、満足して生涯を閉じるという訳にはいかないでしょう。

5. 年を取るほど幸せになっていく

幸せで、何事も満ち足りた晩年を送り、なんの心配もなく、思い残すこともない最期を迎えられれば、最高の人生だったと思いながら生涯を閉じることができるでしょう。

しかし、そのためには、年を取るほどに幸せになっていく、ということが必要になってきます。いったいどうやったら、そんなことができるのでしょうか？

満足のいく人生を生きることは簡単ではない。自分の努力と心がけと智恵と幸運が必要でしょう。満足して死を迎えることはどうか？ これも簡単ではないでしょう。同じく、多くの努力、心がけ、幸運が必要でしょう。なんとむずかしいことか！！

(2015年10月)